

# ACANTHUS



留学生 茶室(茶琴亭)体験

## 特集

# 国際交流でひろがる世界

## Index

学長挨拶 .....	2	留学体験記 .....	6	保護者のためのキャンパス見学会 開催 .....	17
理事長ヨーロッパ訪問 .....	3	クローズアップキャンパス .....	8	クラブ・サークル紹介 .....	18
台湾「開南大学」校長一行が本学を表彰訪問 .....	4	先輩からの手紙 ~就職内定者~ .....	12	クラブ・サークル大会結果 .....	18
韓国「檀国大学校」、「北一高等学校」を訪問 .....	4	先輩からの手紙 ~教員採用試験合格者~ .....	13	Topics .....	19
中華民国教育部、学術交流協定を大いに評価 .....	5	連載 研究室への誘い 保健福祉学部 .....	14		
2012日本留学フェア 台湾・韓国会場参加 .....	5	大学祭 ~山城祭・杏樹祭~ .....	16		



# 「通説」を疑う 批判的精神の涵養

学長 桐野 豊



大学教育の大きな目標の一つとして、「通説」を疑って検証する能力（批判的精神）の涵養があげられます。手元の辞書（旺文社国語辞典）によれば、「通説」とは「世間で一般に認められている説」とされています。通説の中には、マスコミで繰り返し報道されることで、多くの人が正しいと思い込んでいるもの、実際には事実と反するもの、根拠がないものがあります。また、根拠のように見えるデータがあっても、そのデータが事実の一面のみを表すに過ぎないものもあります。

例えば、「少年犯罪は増えている」「若者は利率的で享乐的で、貯蓄をしない」「日本の食料自給率は約40%で、世界でもトップクラスの食料輸入国である」「人口が減少すると日本は貧しくなる」「高齢化で医療費が増える」「日本のエネルギー効率は断トツで世界一高い」「これから年金はあまり貰えなくなるので、年金保険料を払っても損するだけだ」などの通説は、事実によって支持されるものではありません。

最後の年金の問題を取り上げてみましょう。日本経済新聞によれば、現在65歳の元会社員であった夫と専業主婦の妻という世帯の場合、年金は月額約23万円（年額276万円）で、これは大卒初任給（2012年上場企業）の平均20万4782円と比較するとかなりの高額となるそうです。実際、日本の年金額は世界一高額であることが知られています。65歳の日本人の平均余命は、男女平均すると87歳ですから、この間22年の年金受給総額は6072万円（276万円×22年）となります。65歳で引退するときに6000万円の貯金のある人は、そうたくさんはいないでしょうから、年金の恩恵は

すごいと言わざるをえません。また、2011年度の国民年金保険料の納付率が58・6%であるというニュースも盛んに報道されました。この数字を見て、日本の年金制度は遠からず崩壊するので、国民年金保険料を納めない方が得だと考える若者が少なからずいるとも伝えられています。しかし、この値は自営業者や農家などが直接支払うべき国民年金保険料のうち、約4割が未納であるというものです。一方で多くの会社員や公務員等は厚生年金、共済年金保険料を給与から天引きされているので納付率は100%となっています。したがって、日本人全体で見ると、国民年金保険料の未納率はたった5%であり、これで年金制度が崩壊する恐れはまずありえないということです。

このように自ら調べ、検証することによって、通説によらない自分なりの新たな事実が見えてくることがあります。これも学ぶこと、研究することの愉しみと言えるでしょう。ぜひ、皆さんも最初に掲げたものや身の回りにある通説の正しさを検証してみてください。

## 音楽文化の振興を願う在オーストリア日本国大使を訪問

ヨーロッパを訪問した村崎理事長は、2012年9月7日（金）ウィーンのオーストリア日本国大使館を訪れ、岩谷滋雄大使と会い懇談しました。

本学は2000年に日本政府とオーストリア政府の推奨を受け、世界のクラシック音楽界をリードする「ウィーン国立音楽大学」と学術交流協定を締結しています。締結調印式は、ウィーン国立音楽大学でオーストリア文化庁、オーストリア日本国大使伊集院明夫氏が見守る中、徳島文理大学村崎理事長とウィーン国立音楽大学オルトナー学長が学術交流協定書に調印しました。調印後、日本大使館で盛大なレセプションが開かれ、多くの関係者から祝福を受けました。この学術交流協定は相互の大学の音楽交流を通して音楽文化の振興を図るという目的のため、2国が合意して成立したものです。

以来、毎年世界的に評価されている著名なウィーン国立音楽大学教授3名を本学に招き、「インターナショナル・サマーアカデミー」を開講しています。こうした講習会は、ドナウ川沿いの「プラハ、ブダペスト、ウィーン」そして、「日本の徳島文理

大学」の4カ所で行われていません。本学で行われているサマーアカデミーは、今や日本全国にその存在が知られるところとなり、各地からレベルの高い受講者がたくさん集まっています。また、冬期には本学音楽学部生のためにウィーン国立音楽大学の教授を招き「冬期講習会」を開催しています。本学学生には同大学への短期留学制度もあり、講習会での優秀者に奨学金を給付して短期留学をさせています。

13年間にわたるこのプロジェクトが継続し、ますます盛んになってきたのも、ウィーン国立音楽大学から推奨され招聘している、現音楽学部長であるマリ奥特ティ教授の尽力によるのも大きいものがあります。

村崎理事長はこうしたことを岩谷大使に報告し、あわせて日本からの留学生が当地で安全で充実した生活が送れるよう、2大学の音楽交流のさらなる発展へのご尽力をお願いしました。大使からは、「全面的に支えてゆく」とのご快諾を得ました。なお、今年度の「冬期講習会」は2013年2月5日（火）から2月9日（土）までの5日間本学で開催されます。



オーストリア日本国大使館にて（左から村崎理事長、岩谷滋雄大使）





保健福祉学部看護学科を見学する校長一行

# 特集 国際交流でひろがる世界

## ◆台湾「開南大学」校長一行が本学を表敬訪問

2012年10月4日(木)および5日(金)の両日、本年6月に本学と学術交流協定を締結した台湾「開南大学」の高安邦(An-Pang Kao)校長一行6人が本学を初めて表敬訪問しました。10月4日(木)午前、徳島キャンパスに到着した一行は、本学桐野学長、安藝事務局長をはじめ、関係者と挨拶、懇談し、今後の教員・学生の交流等について意見交換を行いました。その後、キャンパスツアーを行い、徳島キャンパスの各学部を熱心に見学しま

した。むらさきホールでは、マリオッティ音楽学部長のピアノのデモンストレーションを見学し、施設・演奏の素晴らしさに感動していました。

一行は翌5日(金)香川キャンパスを訪れ、柳井文学部長、多田理工学部長および丸山香川薬学部長ならびに名越総務ユニット長と意見交換を行った後、施設を見学しました。

高安邦校長はじめ訪問団の方々からは、徳島・香川両キャンパスの施設、教育内容、教材

等の学習環境を高く評価していただきました。

台湾「開南大学」は、台北市の近傍台湾北部の桃園県にあり、商学部を中心として5学部28学科、約1万人の学生が学ぶ新しく大きな総合大学です。

2012年度後期から本学総合政策学部 林希美さんが交換留学生として開南大学に留学しています。今回の高安邦校長一行の訪問により、今後両校の各分野での相互の交流が一層深まることが期待されます。

## ◆「独」日本学生支援機構主催 2012日本留学フェア 台湾・韓国会場参加

文部科学省は、「グローバル人材育成推進事業」として、各大学が世界各国の大学と密接に交流し、高等教育のグローバル化を積極的に推進するよう指導しています。本学は、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な競争力の向上や、国と国の絆の強化基盤として、グローバルな舞台上に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、1988年にバンクーバーコミュニティカレッジとの学術交流協定の締結、続く1995年にはマサチューセッツ工科大学との学術交流協定等々を積極的に推進してきました。近年、在台湾の各大学との交流を推進し、学



教育部公刊文書の一部

生の交流、教員・研究員等の交流を鋭意推進しています。2012年6月の台湾「開南大学」との学術交流協定締結で、台湾の12大学、在台湾高校との高大連携5校となり、全協定校は26校に達しました。

昨年、中華民国(台湾)は、建国100周年を迎え、政府公刊の各種広報紙が発刊されました。そのうち教育部(日本の文科省に該当)発行の「教育部 100年臺日文教交流新境界」には、2009年〜2012年の本学の台湾各校との交流状況を詳しく紹介し、これらの活動を極めて高く評価しています。その一部を左に紹介します。

### 「教育部公刊文書 一部抜粋(訳)」 「徳島文理大学が台湾を訪問し、4大学と学術交流協定を締結」

徳島文理大学が台湾教育委員会の協力で、それぞれ2011年10月と12月に台湾を訪問し、義守大学、東海大学、国立台中教育大学、国立師範大学の計4校の大学と学術交流協定を締結した。

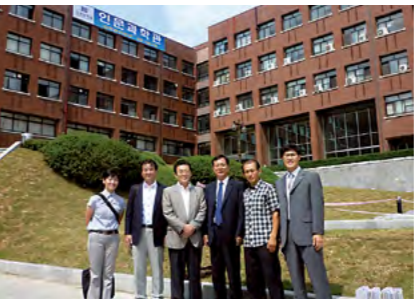
台湾教育委員会国際文教処林文通処長は次のように述べた。徳島文理

大学は創立116年の歴史のある大学で、9学部26学科の総合大学である。特に薬学部、音楽学部、保健福祉学部では、それぞれの関連分野で極めて大きな学術研究の成果を出している。村嶋正人理事長は、かつて20年前に台湾の教育委員会を訪問したことがあり造詣が深い。近年、徳島文理大学は教育国際化を重視し、特に積極的に台日学術交流を推進している。台湾の中山医学大学を含む計8大学、5高校と大学・高校連携学術交流協定を締結。2011年には、中山医学大学、大

## ◆韓国「檀国大学校」、「北一高等学校」を訪問

2012年9月10日(月)、本学の協定校である韓国の檀国大学校(天安キャンパス)を表敬訪問しました。

檀国大学校は、京畿道龍仁市の竹田と忠清南道天安市にキャンパスを持つ学生数約1万人の私立総合大学校で、人文科学部の先生方に大学の施設を案内していただいたほか、薬学部では韓国の薬学部事情について情報交換を行いました。



檀国大学校(天安キャンパス)を表敬訪問



北一高等学校の授業風景

続いて、韓国国内でも高い進学率を誇る私立北一高等学校を訪問し、「国際クラス」で学ぶ生徒たちの授業風景を見学しました。「国際クラス」は各学年30人ずつで構成され、ネイティブの専任教員が常動し、英語ですべての科目の授業が行われるなど、海外の有名大学への進学を目標に受験勉強に励んでいました。また、北一高等学校は全寮制で、放課後や週末にも補講が行われており、韓国の厳しい受験事情とともに、海外留学への関心の高さも知ることができました。

今後もこのような機会を通じ、徳島文理大学のPRとさらなる国際交流に努めていきたいと思います。

## ◆「独」日本学生支援機構主催 2012日本留学フェア 台湾・韓国会場参加

日本への留学希望者、関係者を対象とした、日本学生支援機構主催「2012日本留学フェア」の台湾・韓国会場に参加しました。

7月21日(土)・22日(日)には台湾の高雄と台北、9月8日(土)・9日(日)には韓国の釜山とソウル、特に韓国フェアは今年が初参加となりました。不景気や震災の影響で、留学希望者が減少する中、台北は3059人、ソウルは2450人が来場しました。



2012 日本留学フェア ソウル会場の模様



本学のブースに来場した薬学科進学希望者と保護者





日本に一年間の留学が決まってから、うれしい気持ちもあるけれど、不安のほうがずっと多かったです。台湾にいたとき、よく先生から「徳島は東京や大阪のような大都市ではないよ」と聞きました。でも、ここに来たら、生活上の不便は何一つもないし、徳島の人々は思った以上に優しいし、不安は一気に吹き飛ばされました。

前期の授業は、一年生と二年生の授業が多かったです。私が教室に入ったとき、もうすでに友だちのグループができていました。みんなに話しかけるのが怖くて、学生のグループに入れず友だちが全然できませんでした。その時はちょっと落ち込んでいました。でも、勇気を出して話しかけてみたら、みんないい人で、親切にしてくれて、とてもうれしかったです。

10月には「台湾食堂」という模擬店を出して大学祭に参加しました。台湾の留学生は少ないので、うまくできるかどうかずっと心配していました。でも、先生方はいつも熱心にサポートしてくれました。私たちが悩んだときも、問題を解決する方法を一緒に考え、助けてくれました。先生方に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。大学祭当日は、学校の先生方も学外の方々も私たちの模擬店に買いに来



着物体験で日本文化に触れました (一番左が王さん)



大学祭に「台湾食堂」を出店



世宗王文化会館の前で、王様の服を体験 (右から2番目が山本さん)

私は、毎年檀國大学校から本学に交換留学で来日する学生と友だちになって以来、いつか韓国に行きたいという思いがありました。そのため、韓国夏期短期留学に参加しました。初めての韓国は感動と驚きの連続でした。

留学前から韓国語は勉強していましたが、授業で自分の韓国語のレベルを知ることができ、先生の話す内容の理解や単語不足に苦労しました。そのため、毎日予習をして知らない単語を事前に調べて授業に臨みました。寮やカフェで友だちと復習やテスト勉強をしたのは良い思い出です。

韓国にいる間、英語を使う機会も多くありました。留学前に大学のネイティブの先生とよく話をしていたので、英語で会話することに不安はなく、韓国で出会ったアメリカやベトナムの友だちと英語でコミュニケーションをとることもとても楽しかったです。ウエルカムパーティや近くの飲食店で、お互いの国の文化やさまざまなことを話して過ごしました。外国の方や日本からの留学生は語学に対して意識が高く、私のモチベーションも上がりました。

この留学経験から、私はさらに韓国語と英語の語学力を伸ばしたいという目標ができました。今は大学の韓国語の先生や留学生と積極的に交流したり、空き時間には韓国語の勉強をがんばっています。

この留学での素敵な思い出と、出会えた仲間感謝しています。



檀國大学校のシンボル、クマの像の前で集合写真



この留学で出会った他大学の友だちと



友だちと韓国料理を体験



若手研究員 快挙!

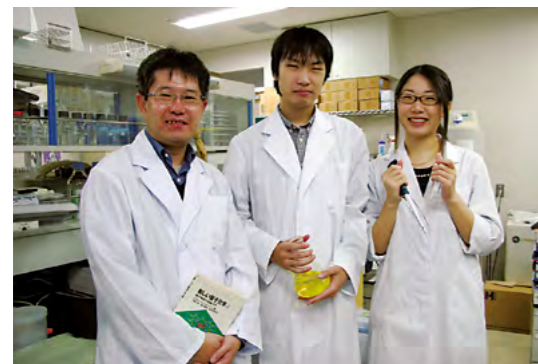
日本学術振興会特別研究員 内定  
森川雅行さん・鈴木雅代さん



香川薬学部を卒業して本学大学院に進学した森川雅行さん(写真:中央)と鈴木雅代さん(写真:右)が、喜納准教授(写真:左)の指導のもと、日本学術振興会特別研究員の内定を受け、毎月20万円の給料と毎年研究費を国から支給されることとなりました。

森川さんは「光反応によるテロメア4本鎖構造の安定性およびテロメアへの影響の解析」、鈴木さんは「Ozから生じる点突然変異の回避機構の解明」という研究課題で採択されました。森川さんの課題は、ガンや老化に関与するテロメア4本鎖DNAにおける光化学反応の生成物を解析します。4本鎖構造に対する生成物の化学的・生物学的挙動を明らかにすることで、ガンや老化の化学的発生メカニズムの解明につなげたいと考えています。鈴木さんの課題は、グアニン酸化損傷による突然変異を回避するためにどのような修復反応が有効かを解析するもので、ガンや後天的遺伝子疾患の発生を抑制するメカニズムを解明するものです。両課題で共通して重要視している点は、化学的手法と分子生物学的手法の両方を用いて研究することです。

研究が好きであること、早期から研究を開始することは、博士課程への進学の一歩となります。そして論文や学会発表の業績を重ねれば、日本学術振興会特別研究員に内定する可能性があります。施設設備が充実している環境で指導教員がサポートしますので、研究者の卵たちはぜひ本学の博士課程を目指してください。



小・中・高校生がサイエンスを体験  
「ひらめき☆ときめきサイエンス」  
3学部で実施



「ひらめき☆ときめきサイエンス 大学の研究室に行こう!」は、小・中・高校生を対象に、大学で行われている高度なサイエンスを直接体験してもらうプログラムです。これは日本学術振興会が、科学研究費の研究成果を社会に還元することを目的として実施しています。

今年は、薬学部・永浜政博教授(8月22日(木):病原菌が病気を起こす原因—細胞毒素の作用を自分の目で見てみよう—)、香川薬学部・松尾亮太准教授(8月9日(木):ナメクジは賢い!!—ナメクジの学習行動と脳の仕組み—)、理工学部・松田和典教授(7月16日(祝)(月):マイクロセンサーが開く世界—ゲーム機から宇宙開発まで—)の3つのプログラムが採択されました。今年もたくさんの参加者があり、実験を体験してもらうだけでなく、昼休みには教授や大学院生と気軽にいろいろな話をすることができました。プログラム終了時には参加者一人ひとりに「未来博士号」の賞状が手渡されました。

2008年度以来、本学からは5つの学部から延べ21のプログラムが採択され、これまで約500人の小・中・高校生が参加しました。これほどの採択数は全国でもほとんど例がありません。本学が科学研究費を多く取得していること、また、その研究成果を社会に還元することに熱心であることの証しとなっています。参加した小・中・高校生は、サイエンスのおもしろさだけでなく、本学の研究レベルの高さを体感してくれたものと期待しています。



薬学部 チーム医療に貢献する薬剤師養成  
高知大学医学部と学部間協定を締結

臨床能力の優れた薬剤師を育てるため、本学薬学部は8月6日(月)、高知大学医学部と「薬学教育と研究に関する連携協定」を締結しました。

今日、医療技術の進展とともに薬物療法の高度化、また、急速な高齢化に伴う医療需要の増大の中、医療の質の向上および医療安全の確保の観点から、薬剤師がチーム医療に積極的に参加することが求められています。しかし、薬剤師の地域偏在・職域偏在が全国的に進み、特に薬学部が無い高知県等の地域では薬剤師の確保が課題となっています。

今回の連携協定の締結により、医療現場で活躍できる薬剤師を育てる教育環境が整い、両大学の薬学・医学教育および薬学研究の充実と発展、さらに薬剤師の確保等の地域貢献が期待されます。



薬学部 密接な連携で薬学教育をさらに発展  
徳島赤十字病院と協定を締結

専門的薬剤師および地域の医療に貢献する薬剤師を育てるため、本学薬学部は8月7日(火)、徳島赤十字病院と「専門的薬剤師養成の連携と協力に関する協定」を締結しました。

薬学部と徳島県の拠点病院である徳島赤十字病院は、密接な連携と協力することで、高度化する医療に対応できる専門的薬剤師、およびチーム医療に貢献する臨床能力に優れた薬剤師の養成を目指すことになり、本学の薬学教育の充実と発展に期待が寄せられています。

薬学部の学生は、医療現場で展開されている最新の医療薬学と薬剤師の役割について学べます。また、薬学部教員は、基礎と臨床の両面から共同研究を進め、がんや感染症などの薬物療法の専門的薬剤師の養成に協力します。

薬学部 香川薬学部 文部科学省が採択  
「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」始まる

本学薬学部・香川薬学部が代表校となり、徳島大学薬学部、松山大学薬学部の3大学4学部で提案した「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」が、文部科学省の大学間連携共同教育推進事業に採択されました。この取り組みは、薬学教育の質的向上を図り、先導的薬学系医療人の養成を行うのが目的です。期間は2016年度までの5年間です。

今後は、他大学の学生が受講できる遠隔授業システムによる学部・大学院のカリキュラムの充実、南海大地震に備えた災害医療に対応できる薬剤師の養成、大学の附属薬局の開設を通じた地域貢献、そして高大連携事業などを、薬剤師会や病院薬剤師会、教育委員会、医療施設などと一緒に取り組んでいきます。







**行事** 大震災にそなえる  
防災訓練を実施

防災意識の向上と防災対応能力を高めることを目的として、2012年度の防災訓練が徳島キャンパスで11月21日(水)に、香川キャンパスで11月9日(金)に行われました。

授業中に地震が発生した想定で行われた地震避難訓練では、迅速で安全な避難方法の確立や避難経路・避難場所の確保、自衛消防隊の役割確認などが行われました。

東日本大震災から1年半以上が経過したことで、昨年よりも若干意識の低下が見られましたが、それでも徳島キャンパスでの自衛隊からの講話や香川キャンパスでの大川広域消防署からの講評に、真剣に耳を傾ける学生の姿が見られました。香川キャンパスでは、避難訓練のほかに、消火栓を使用した消火訓練や避難シューターを使用した訓練なども行われました。

徳島キャンパスでは、今年から学生や教職員を対象とした普通救命講習会や体験型避難シミュレーションゲームなどを実施し、年間を通して防災教育を実施しています。



**行事** LEDがキャンパスを灯す  
イルミネーション点灯式 開催

今年で7回目となる本学のイルミネーション点灯式が、徳島キャンパスで11月30日(金)、香川キャンパスで12月3日(月)に開催されました。徳島キャンパスでは村崎理事長、桐野学長、そして学生代表が点灯スイッチを押し、徳島県最大の31万球のLEDが一斉に点灯すると、点灯式に詰めかけた来場者からは歓声とともに拍手がわき上がりました。点灯のあとはハンドベルの演奏や、音楽学部生による演奏会が行われました。

香川キャンパスでは、志度中学校吹奏楽部によるクリスマスコンサートが行われました。そのあと点灯式が行われ、6万5千球のLEDが灯り、本学学生によるハンドベル演奏が行われました。

両キャンパスともに点灯期間は2013年2月14日(木)まで。毎日17時～21時まで点灯しています。幻想的な雰囲気となったキャンパスにぜひお越しください。



**クラブサークル** 【Message】  
ハーネス連 徳島文理大学連へ感謝状贈呈

徳島文理大学連は、学生連らしく若さを前面にだして、元気に笑顔で一年中阿波おどりを踊り鳴らしています。そして、ほとんどの連員が阿波おどりに魅せられて、大学に入ってから阿波おどりを始めているので、徳島県内出身者はもちろんですが、県外出身者も半数以上を占めています。そんな私たちは毎年、夏のお盆の4日間に行われる阿波おどりの初日に、ハーネス連の皆さんと一緒に踊らせていただいています。

ハーネス連さんは、視覚障がいのある方とそれを支える盲導犬やボランティアの方々で構成されています。夏の本番前には合同で練習をして交流を深め、“おどりはハーネス”といったかけ声を入れたりなどして今年の夏もたいへん楽しく盛り上がりました。

今回このような感謝状をいただき本当に嬉しく思います。これからも毎年一緒に踊れるようにハーネス連さんと交流を深め、阿波おどりに励んでいきたいと思ひます。

(人間生活学部心理学科2年 連長 三木野大貴)



**音楽学部** 音楽学部卒業生 楠野麻衣さん 第4回徳島音楽コンクールグランプリオーディション グランプリ受賞

第4回徳島音楽コンクールのグランプリオーディションにおいて、ソプラノ・リリコレッジャーロの楠野麻衣さんがグランプリを受賞されました。

楠野さんは、本学音楽学部の大戸井啓子氏の下で声楽の基礎を学び、卒業後に上京。(公財)日本オペラ振興会オペラ歌手育成部で研鑽を積み、今年4月には藤原歌劇団准団員となりました。現在は東京を中心にコンサートやオペラ公演など、活躍の場を広げています。

グランプリオーディションでは、徳島音楽コンクールの時よりさらに成長の跡を示し、お茶目で軽妙な「ノリーナ」を表現。また、難しいテクニックの必要なアジリタ唱法に果敢に挑戦し、「夜の女王」の怒りと悲しみを爆発させました。



**人間生活学部** メディアデザイン学科 4年 工藤拓也さん ロボットコンテスト「SMART 2012」審査員特別賞を受賞



ロボットコンテスト「SMART2012」が、徳島大学工学部共通講義棟6F 創成学習スタジオにおいて開催され、人間生活学部メディアデザイン学科4年生の工藤拓也さんが製作した「拓也DX」が審査員特別賞に輝き、表彰されました。今大会には、徳島文理大学(徳島キャンパス・香川キャンパス)、徳島大学、阿南工業高等専門学校、香川高等専門学校、津山工業高等専門学校から33チーム100人の学生が参加し、全チームこの大会に向けて製作してきた自作ロボットで奮闘しました。

予選リーグ戦に続いて決勝トーナメントが行われ、興奮と歓声の中、無事終了しました。優勝、準優勝、技術賞、デザイン賞などの表彰が行われた中、確実な動作をするロボットが審査員に高く評価され、審査員特別賞を受賞されました。

**短期大学部** 生活科学科食物専攻 徳島文理大学附属幼稚園にて食育を行う

11月29日(木)短期大学部生活科学科食物専攻の学生が、栄養指導の一環として附属幼稚園で「食育」の授業を行いました。

最初に幼稚園児と一緒に山本正子教授より郷土の特産物や郷土料理について説明を受け、その後、郷土料理をアレンジした「焼き餅」を作る実習をしました。幼稚園児は、学生の指導を受けながら餅の中央にサツマイモあんや小豆あんを入れて包み、野菜で飾り型を付けてホットプレートで焼きました。サツマイモあんは、長尾久美子准教授の指導のもとに鳴門金時を使って2年生が作りしました。できた焼き餅は阿波番茶とともにみんなでおいしく試食しました。

学生たちにとっては初めての指導で、緊張しながらも幼稚園児と楽しい時間を過ごしました。幼稚園児からは、サツマイモやサツマイモ料理、焼き餅に関するたくさんの質問があり、学生にとって大変有意義な実習となりました。





## 教員採用試験合格者



### 何もない日なんてない

人間生活学部 児童学科  
**鴻上 美幸**  
 神奈川県小学校教諭 合格

大学生生活も残りわずかになりました。入学当初は何から始めてよいのか分からず、とにかく目の前にあることを何も考えずにただただこなす毎日でした。しかし、将来どのようになりたいのか、そのために今何をすべきなのかを考えたとき、ボランティアや教員採用試験に向けての勉強はもちろんのこと、友人とともに過ごす日々の生活の中にも勉強になることはたくさんあることに気づき、一日一日を今まで以上に大切に過ごすようになりました。特に教員採用試験が近づいてきたころは、大学の先生方、友人など周りの方々には本当にお世話になりました。

この合格は決して一人では勝ち取ることはできなかったものだと思います。本当にありがとうございました。



### 夢から目標へ

人間生活学部 児童学科  
**佐藤 大典**  
 大阪府小学校教諭 合格

「ぼく、学校の先生になりたい！」これは私が小学校高学年の時に発した言葉です（私はあまり覚えていませんが）。しかし、私自身中学・高校と進むにつれ、「学校の先生になりたい」という夢から、「学校の先生になる」という目標へと変わっていきました。

大学ではその目標を達成するため、2年生から幼稚園のボランティアや小学校の学習支援ボランティアに積極的に参加しました。本格的に勉強し始めたのは3年生の10月からでした。遊ぶ時は遊ぶ！勉強する時は勉強する！と、いつもメリハリをつけて勉強しました。

目標は一人ひとり違いますが、自分の決めた目標は最後まで諦めずに、全力でがんばってください。未来を担う子どもたちがあなたを待っています。



### 多くの人に背中を押してもらいながら

人間生活学部 人間生活学科  
**山崎 千晶**  
 広島県養護教諭 合格

「私の強みは、誰よりも周りの人と環境に恵まれていること」。このことを、教員採用試験を経験した中で実感しました。徳島文理大学に編入学し、単位取得のための授業に追われ、本格的に勉強を始めたのは3年生の1月からでした。自分なりに傾向を調べ、問題集や参考書を数冊に絞り、繰り返し勉強しました。問題を解く時も「自分ならこうする」と教師像を思い描くようにしました。途中で不安になることや迷うことも多くありました。そのときは周りの人に相談し、背中を押してもらいました。私の周りには「大変だね」ではなく、「がんばろう」と言ってくれる人が多くいました。

今まで出会い、支えてくださったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。



### 想いを大切に

人間生活学部 児童学科  
**蓬萊 康弘**  
 川崎市小学校教諭 合格

採用試験では、教師になりたいという想いはもちろんですが、これまで支えてくれた両親と家族、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝えたいという想いで、絶対に合格の報告ができるようにとがんばりました。

今回、合格通知をいただき少しはその想いを伝えることができたと思います。また、同じ児童学科の仲間にも本当に支えられていると改めて感じることができました。この経験をもとにいつも全ての人に感謝の気持ちを持ち、これからの日々を一生懸命過ごしていきたいと思っています。

私は、目標を明確にもっていたことががんばり抜くことができました。皆さんも強い想い、覚悟を持ち、仲間と支えあうことで教員採用試験を乗り越えてください。

## 就職内定者



### 自分がやりたいこと

保健福祉学部 看護学科  
**岡田 誠也**  
 徳島大学病院 内定

私が就職活動の中で一番大事だと思ったことは、自分が将来的に何をやりたいのかを明確にすることです。企業に入ることがゴールではなく、その先を見据えて何のためにその企業に入りたいのかを自分の中でしっかり持つことで、一貫性のある自己アピールができると感じました。

私は漠然としか将来のことを考えていませんでした。そこでキャリア・サポートグループや看護学科の先生方に相談してみると、どんなことをしたいのか、過去の先輩たちはどうだったのか等の意見やアドバイスをくださり、自分が将来本当にしたいことを見直すきっかけになりました。

就職活動を行うに当たって、何をしたらいいのかわからない人は、まずはやりたいことを明確にしてください。当たり前のことですが、一番の原動力になると思います。



### 就職内定を得て

総合政策学部 総合政策学科  
**北山 友紀**  
 徳島県職員（警察事務）内定

私は、学生ボランティア部員として、一日通信司令官をはじめとする防犯に関する活動を行う中で、警察職員の方と接することがありました。その経験から、私も一緒に働きたいという気持ちが生まれ、徳島県警察事務を志望しました。

公務員試験の勉強は、1年生の後期から公務員試験対策講座を活用して教養試験の対策をしたり、2年生から授業と並行しながら問題集を使って専門試験の対策を行いました。

公務員試験の勉強は量も多く大変ですが、諦めずに最後まで努力を続けることが必要だと思います。私は、先生方や同じ道を目指す友人たちがいたことも、諦めずにやってこれた要因だと思っています。努力する人を運命は決して裏切りません。



### 就職活動を振り返って

理工学部 ナノ物質工学科  
**津川 薫**  
 株式会社四国中核 内定

就職活動においてさけては通れなかったのが、エントリーシートと面接試験です。質問内容も企業によってさまざまだったので悩んだ記憶があります。その中で必ずと言っていいほど聞かれたのが「自己PR」「志望動機」「入社してやりたいこと」でした。

そういった質問に対しては地に足の着いていないような回答は絶対に避け、常に具体的な考えを持つよう意識しました。そして履歴書の内容を理解し、いつでも話せるように練習しました。記載内容と面接での発言内容に矛盾が出ないようにキャリア・サポートグループで練習をしたのも良かったです。

就職活動は苦しいこと、辛いことの方が多いと思います。それでも自分を信じて行動し続ければ必ず成果が生まれます。決して諦めないでください。どうしても辛いときには一時的に息抜きをしても良いと思います。とにかく「続けること」これが一番大事です。

皆さんの就職活動が成功することを祈っています。



### できることを全力で

文学部 英語英米文化学科  
**小野 伊寿美**  
 株式会社香川銀行 内定

就職活動を始めたころ、自分の就きたい仕事が見つけれず、どうすればいいのかわかりませんでした。そこで何度も合同企業説明会等に足を運び、多くの企業の話聞きました。実際に話を聞いてみると、自分が想像していたものと違うということもありました。最終的に、将来自分が働いているイメージができる企業だけに絞りを絞り、就職活動を進めました。

今、やりたいことが分からないという人は、とにかくいろんな会社があることを知ってほしいです。自分が働きたいと思える会社と必ず出会えるはず。また、私は周りの人の意見を聞き参考にしました。家族や先生方、そして先輩方からもらったアドバイスや励ましの言葉は、私にとって本当に大きな支えになりました。これから就職活動する皆さん、がんばってください。





# 理学療法学科

◆保健福祉学部理学療法学科教授 小嶋 裕  
◆保健福祉学部理学療法学科3年 森 啓太  
◆保健福祉学部理学療法学科3年 濱田 啓太

## ●小嶋教授にお聞きします。研究(ゼミ)内容を教えてください。

研究手法としては、従来の「医学的モデル」の視点から「生活モデル」「社会モデル」の視点への転換を試みています。「疾病の治療」から「QOLの向上」「健康」から「生活の自立」「疾病」から「障がい」「治療」から「支援・援助」などへの視点の転換です。

具体的な研究テーマは、①高齢者のADL(日常生活活動)・IADL(手段的ADL)・QOL(命・生活・人生の質)の評価(法)、②高齢者の転倒に関する要因、③介護職・介護者(家族)の介護負担(身体的・心理的)の要因分析、④生涯スポーツと理学療法、⑤運動発達の問題が、など。

着任して2年半ですが、これらのテーマは本学の他学部・他学科と学際的にオーバラップする領域(分野・視点)を多く含んでおり、共同研究の可能性を模索(楽しみに)しています。

## ●研究(ゼミ)内容の特徴を教えてください。

理学療法(士)は、「allied health profession(健康に関わる専門領域・職)」であるという概念に基づいてから、「Physical therapy for well-being in life(理学療法は人が健やかに生きていくための支援)」という視点を基本に置いて、上記研究テーマの実践を心掛けています(理学療法学科の目指す視野でもあります)。

基本的には「実証的」研究の視点を大切にしています。学生支援(ゼミ)では、客観的視野の養成に心掛け、統計的手法の必要性とその理解にも努めています。また、情意的な領域に目を向ける必要性も強調しています。

リハビリテーション医学の先達 Dr.Rusk (New York Univ.) の言葉です。リハビリテーションとは「Not only to add years to life, but also to add life to years」。

## ●学生たちの雰囲気はいかがですか？ なかでも、このコーナーで取材する学生さんは、どのように取り組まれていますか？

現在、私のゼミには3年生の学生5人が所属しています。とかく「研究室」いうものは、足を踏み入れ難い印象を与えますが、私は「教員と学生(学ぶ人)のサロン」だと思っています。

ゼミ生は今のところ(？)、真面目に真摯に取り組んでいます。なるだけ自由な雰囲気作りを心掛けていますが、果たしてゼミ生たちの印象は…。全員の協力関係は非常に良好です(感謝)。

ゼミは3、4年次を通しての2年間(4年次前期の4か月間は総合臨床実習)の学習になります。4年次では、卒業研究(卒論)の作成も控えています。学外施設での調査(評価)が主になりますが、ぜひとも今の良好な協力関係の継続を大切にしたい調査の実践に活かしてほしいと思っています。

## ●この学問の学びの面白さ、醍醐味を教えてください。

研究(テーマ)に対するアイデア(切り口)は多くあります。だから難しい面もありますが、仮説に対する実証作業を通しての新しい発見には楽しみがあります。

ADL・IADL・QOL評価の実践を通しての身体的・心理的な側面からのアプローチ(接近)は、「生から死」への経緯を通して、包括的に「人間の能力」を捉える上で有益な示唆を与えてくれます。上述した「人がいかに健やかに生きていくか」という命題に対する答えの一つの模索でしょうか。

## ●この研究室(ゼミ)での学びを通して、学生たちに学びとってほしいことは何ですか？

先輩から「実践なくして発言なし」とよく言われました。実証的研究を通して物事を客観的に捉える視点を養ってほしいです。

リハビリテーションは「チーム・アプローチ」が大切とされています。得られた知識・技術を他職種との連携の中で活かしてください。

「健康に関わる専門家」を目指す者として、要支援者の心理面にも気配りした支援(治療)提供を心掛けてください。

「Doing so」 being」

## ●続いて森さん、濱田さんにお聞きします。現在所属している研究室(ゼミ)を選んだきっかけを教えてください。

森さん…ADLのように、生活を営む上で不可欠な基本的動作を支援する先にある対象者の生活も考えるという、QOLの視点について深く理解し、それらの評価手段を学び、研究へと繋げたいと思ったからです。

濱田さん…「リハビリは評価に始ま

## ●所属している研究室(ゼミ)の魅力はどんなところにありますか？

森さん…少人数ですが、だからこそ「一致団結」できる場面も多く、授業中は小嶋先生の学生時代の話や今までのどのような経験をしてきたかという話を交えて説明してくださるので、人生の勉強にもなり楽しいです。

濱田さん…所属している研究室の学生全員の仲が良く、みんなで協力して楽しく授業をしているところです。また、小嶋先生がお馴染みのギャグや笑いを起こしてくれるところは、学生として緊張が和らぎ、居心地の良い場所になっています。

## ●今、もっとも興味をもっているテーマは何ですか？ その理由も教えてください。

森さん…今までの理学療法は、「医学モデル」での介入や研究が多かったけれど、今はさらにその先に踏み込んだ「生活モデル」「社会モデル」の介入や研究が必要とされているので、退院後の生活、例えば暮らしに満足しているかどうか、どういった人になどのような傾向があるかなどを、アセスメント・チャートを用いて調査したいと思っています。

濱田さん…QOLは、「家族生活」や「社会参加」など多面性を持っていますが、その中で「趣味」が生活全体にどの程度に関与(影響)

## ●これから取り組みたいテーマ、学びの目標、将来の夢を教えてください。

森さん…まだ座学での勉強ばかりで、実際に対象者に介入したり、評価結果を分析することに不安を感じていますが、長期の実習での経験も踏まえて少しずつ理解と実践に取り組みたいと思っています。

濱田さん…現在まで、臨床現場を体験したのは見学実習2回と評価実習1回の計3回で、来年4月から長期実習を控えています。学年が上がるにつれて医療職としての責任感やプレッシャーが現実味を帯びてきました。



小嶋研究室(ゼミ)の皆さん



写真左から森さん、小嶋教授、濱田さん





山城祭を終えて

第48回山城祭は、笑顔(Smile)の輪(Ring)を広げたいという願いをこめ「Smiling」というテーマで開催しました。

今年も、準備期間中は暴風雨で大変でしたが、野外ステージを図書館前に設置したり、ミス文理に加えてミスター文理コンテストを実施したりと、新しいことにも挑戦しました。

芸能ライブでは、T.E.E.をゲストに迎え大変盛り上がり、参加者全員の一体感が得られました。

開催期間中は天候にも恵まれ、たくさんの方々の笑顔の輪を広げることができ、山城祭を成功に収めることができたと思います。

山城祭を開催するにあたり多くの方々からご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございます。

次回第49回も、さらに盛り上がる山城祭にして、学外から多数のご参加を得られるようにしたいと思います。

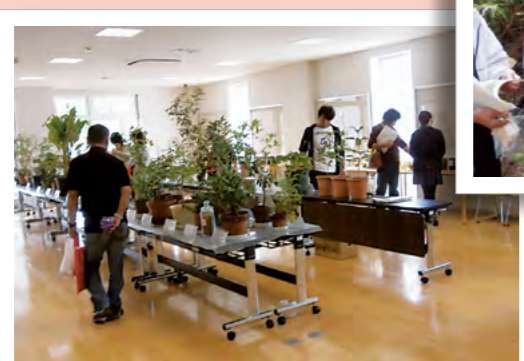
薬学部 ミニ薬草展開催

大学祭の一環として、10月20日(土)から21日(日)に薬学部教育棟の24号館1階ラウンジにて、徳島県薬草協会との共催で、ミニ薬草展を開催しました。また本薬草展の企画・運営に、薬学部の学生8人が積極的に参加しました。徳島県下各地の主要な薬草・薬木の展示、薬酒・果実酒の展示、生薬・ハーブの展示、メグスリノキなどの薬用茶の試飲などを行いました。

また、徳島キャンパス薬草園の見学会および「薬食同源」のテーマでミニ講演会も行いました。

10月20日(土)の午後1時30分からは、河野メリクロン代表取締役社長の河野通郎氏の公開講座があり、公開講座終了後には薬剤師、学生、一般市民など200人を越す人々がつめかけました。参加者は展示物等に対して熱心に質問してください、

薬草に対する知識の吸収に努めるなど関心の深さが感じられました。本薬草展を本学薬学部で開催することにより、多くの県民の人たちに徳島文理大学を知っていただき、また薬学部の学生たちも、教科書で習った薬草を、実際に、聞くことにより、生薬の知識を高めることができました。



大学祭

杏樹祭

杏樹祭を終えて

今年の第27回杏樹祭も勇輝(、)実行委員長として、まず当日3日間を成功のうちに終わることができて安心しています。

昨年はいちメンバーだった私が2年目にして委員長を務めることとなり、メンバーのみんなに迷惑もかけたし、自分自身ずつとあたふたして、振り返ると反省ばかりです。

ミス文理コンテストや、ききポテチの企画が成功したのは、企画部署のメンバーががんばってくれた成果です。金銭面でトラブルが起きなかったのは、事務会計がしっかり管理してくれたからです。テナントの数、配線、

ブレイカーのトラブルが起きなかつたのは設備管理が汗をかいて動いてくれたおかげです。

改めてみんなにお礼を言いたいです。ありがとうございます。

そして来年は、もつと面白い杏樹祭を創ろう！



在学生保護者のためのキャンパス見学会 開催

在学生の保護者を対象としたキャンパス見学会が、9月23日(日)に徳島キャンパスで、10月6日(土)に香川キャンパスで開催されました。この催しは、普段大学を訪れる機会のない保護者の方にも、学生の学ぶ教育環境をご覧いただき、大学に対する理解を深めていただくことを目的とし、今年で3回目の開催となります。

両日とも天候に恵まれ、徳島・香川はもとより和歌山・大阪、オープンキャンパス無料送迎バスを利用して兵庫・岡山・愛媛・高知など各地から76人の保護者、ご家族の参加がありました。徳島キャンパスでは、むらさきホールでのミニコンサート、学食ランチ体験、就職支援ユニット長

による「本学の就職支援について」の説明会、所属学科に分かれての学科別施設見学会などが行われ、香川キャンパスでは、「卒業生からのメッセージ」と題して現場で活躍する卒業生から、学生時代の将来の考え方、就職活動に必要なこと等についての報告会も開催されました。



参加者からは「オープンキャンパスや入学式に来ることができなかった父親もゆっくり大学を見学できて良かった」「息子からの情報だけでは分からなかった大学の様子が分かり、情報の共有ができました」などの感想が寄せられました。

秋の日の一日、大学を知り、親しみ良い機会として、保護者の方にもキャンパスを満喫していただけたのではないのでしょうか。お忙しい中ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



# Topics



## 文学部の学生による展覧会

見る知る変わる お寺の魅力展 尾道・西國寺が語るもの

- ◇日程：2013年2月15日(金)～3月10日(日)
- ◇会場：高松市石の民俗資料館 企画展示室
- ◇主催：徳島文理大学・高松市石の民俗資料館
- ◇特別協力：西國寺(広島県尾道市)



## 演奏会日程

- ◇第16回電子楽器コース・ニューサウンドコース卒業コンサート“Home”  
日時：2013年2月19日(火) 18:00 開演  
場所：徳島キャンパス アカササホール
- ◇徳島文理大学短期大学部音楽科第45回・徳島文理大学音楽学部第41回 卒業演奏会  
日時：2013年3月14日(木) 14:00 開演  
場所：徳島キャンパス むらさきホール
- ◇第13回生涯学習講座(コーラス・キーボード)修了コンサート  
日時：2013年3月2日(土) 14:00 開演  
場所：徳島キャンパス むらさきホール
- ◇第13回文理OBオーケストラ定期演奏会  
日時：2013年3月24日(日) 14:00 開演  
場所：徳島キャンパス むらさきホール



文理OBオーケストラ定期演奏会



## オープンキャンパス

### 2013 オープンキャンパス 開催日決定

高校生や保護者など、本学に興味・関心がある方を対象とした多彩なプログラムをご用意する予定です。詳しい時間やスケジュールについては、本学ホームページにて随時公開いたします。皆さまのお越しをお待ちしております。

- ・参加申し込み不要
- ・入退場自由

※無料送迎バスの利用のみバス予約が必要

【お問い合わせ】フリーダイヤル 0120-602455

【HP】<http://www.bunri-u.ac.jp>



- ◇日程
- 徳島キャンパス・香川キャンパス合同開催 3月20日(祝/水)
- 徳島キャンパス 5月25日(土)・7月13日(土)・8月2日(金)・8月3日(土)・8月24日(土)・9月28日(土)
- 香川キャンパス 5月26日(日)・6月16日(日)・7月15日(祝/月)・8月4日(日)・8月24日(土)・10月6日(日)



# クラブ・サークル紹介



## 軟式野球同好会

軟式野球同好会は、週に3回、2～3時間活動しています。1～3年生、選手15人・マネージャー3人、計18人で構成されています。

主な年間スケジュールは、四国地区大学軟式野球・春季・秋季リーグ出場(上位成績で春季・全国大会出場、秋季・西日本大会出場)、四国インカレ出場となっています。

今年で結成3年目の同好会でありながらも日々練習に励み、チームとしては今年度四国インカレ3位、また、今年度の四国選抜メンバー(18人構成)に外野手で1人選出されるなど、結果を残すことができました。

今後、現状に満足することなく日々の活動に精進し、歴史が浅いこの団体をチーム一丸となり、より発展させていくことが目標です。

陸上競技部は週に5回運動場や体育館を利用して活動しています。

部員の中には陸上競技に興味を持ち、大学から競技をはじめめる人もいて、皆それぞれ自分の目標を持って練習しています。走り込みや筋力トレーニングなど基本練習に加え、坂道を使ったダッシュや、体の動き・走り方を確認しあう独自の練習方法を行っています。また、今年から徳島キャンパスの陸上競技部員と一緒に試合に参加し、互いに刺激し合える仲間が増えています。

試合での実績は、地方予選大会で保健福祉学部診療放射線学科1年榎原功輝君が三段跳びで優勝し、日本学生陸上競技対校選手権大会へ出場しました。

活動の幅を広げながら、今後も良い成績が残せるようさらに練習に励みたいと思います。

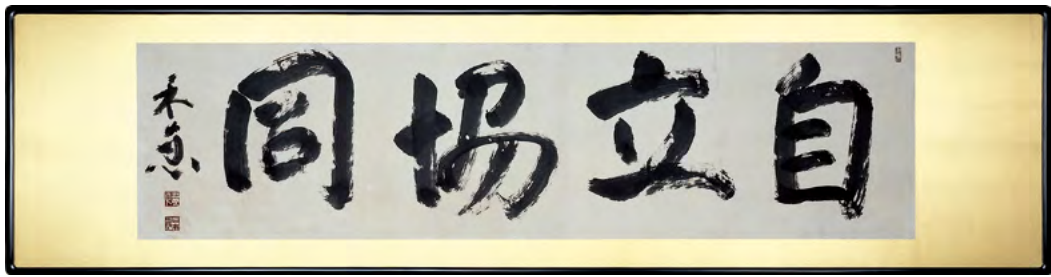


## 陸上競技部

## クラブ・サークル大会結果

- ◆剣道部
  - 第33回徳島県女子剣道大会 団体3位
  - 徳島文理大学Aチーム
- ◆弓道部
  - 県下大学弓道大会 団体 女子優勝
  - 個人 男子2位
  - 人間生活学部心理学科 2年 中村 拓人
- ◆卓球部
  - 秋季リーグ四国学生卓球選手権大会 団体2部リーグ3位
  - 個人 女子1位
  - 保健福祉学部看護学科 2年 詫間 千紘
  - 個人 女子2位
  - 人間生活学部児童学科 3年 小松 愛
- ◆陸上競技部
  - 第65回西日本学生陸上競技選手権大会 対校選手権大会
  - 三段跳び 香川県代表として出場
  - 第35回中国四国学生陸上競技選手権大会
  - 三段跳び2位
  - 幅跳び4位
  - 保健福祉学部診療放射線学科 1年 榎原 功輝
- ◆スポーツチャンバラ部
  - 第38回世界選手権大会 長槍の部 優勝
  - 三段以上・長剣の部 準優勝
  - 理工学部(現・保健福祉学部) 臨床工学科 3年 川田雄太郎





## 建学の精神

徳島文理大学の建学の精神は「自立協同」である。自立は重要な目的であり、「他からの協力、他への協力」は、それに到達する方法である。この建学の精神は、学祖村崎サイが明治28（1895）年7月、徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち、「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和20（1945）年7月、学園は戦火に包まれて灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命をともにした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人前理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、他からの協力、他への協力がなくして、「人間の自立」はあり得ないとの考えを強く抱き、福澤諭吉の言葉「独立自協力来自尊自克己生」（独立ハ協力ヨリ来リ自尊ハ克己ヨリ生ズ）を引き、協力と克己が「自立自尊」の方法論であると説いた。福澤諭吉の高弟であり慶應義塾大学塾長を務めた林毅陸は、学祖が学んだ高松の林竹堂塾の同門であった。本学は、このような学園の歴史に基づいて「自立協同」という建学の精神のもと、人間の自立と学芸の独立を掲げ、教育を推進している。

### 徳島キャンパス（徳島県徳島市山城町）

- 大 学 院……薬学研究科（博士課程）／人間生活学研究科（博士課程）／総合政策学研究科（専門職学位課程）
- 専 攻 科……人間生活学専攻科（児童学専攻・人間生活学専攻）／助産学専攻科／音楽専攻科（器楽専攻・声楽専攻）
- 薬 学 部……薬学科
- 人間生活学部……食物栄養学科／児童学科／心理学科／メディアデザイン学科／建築デザイン学科／人間生活学科
- 保健福祉学部……理学療法学科／看護学科／人間福祉学科
- 総合政策学部……総合政策学科
- 音 楽 学 部……音楽学科
- 短期大学部……商科／言語コミュニケーション学科／生活科学科／保育科／音楽科

### 香川キャンパス（香川県さぬき市志度）

- 大 学 院……薬学研究科（博士課程）／工学研究科（博士課程）／文学研究科（博士課程）
- 香川薬学部……薬学科
- 保健福祉学部……診療放射線学科／臨床工学科
- 理 工 学 部……ナノ物質工学科／機械創造工学科／電子情報工学科
- 文 学 部……文化財学科／日本文学科／英語英米文化学科

### 徳島文理大学ホームページ

<http://bunri.mobi/> (mobile) <http://www.bunri-u.ac.jp> (PC)



校章の由来 ……Acanthusとは、アカンサス属の一種、アカンサス・モルリスの葉で、別名ハアザミ。その刺は、事に当たって厳正、的確に処理する優れた知性を、その葉は古代ギリシャの美または芸術に通ずる豊かな情操を具象化し、本学の建学精神である「自立」を具現化した科学と芸術を示すものとして校章に制定されました。